

2013年(平成25年)5月7日

発行 株式会社発明通信社

http://www.hatsumeico.jp/

東京 千代田区内神田 1-12-2 TEL03-5281-5511

大阪 大阪市北区東天満 2-10-14 TEL06-6353-0324

名古屋 刈谷市相生町 2-29-1 TEL0566-63-5588

発明

主な記事

★ オプション機能のご紹介 2面

HYPAT-iのオプション機能には、魅力的なメリットが数多く存在いたします。皆さんはいくつご存知ですか？

★ ブックステーション 3面

知的財産に関連した書籍をご紹介します。

★ 「献血」、知っていますか？

献血の歴史を振り返ってみましょう。

★ ひとつこと

発明通信社初の電子書籍をご紹介します。

4面

4面

～はつめい
かわらばん～

KA

WA

RA

版

発明通信社、待望の アジア特許検索サービス開始

特許検索サービス
HYPAT-i

企業の知的財産活動がグローバル化する近年、特にアジア諸国・地域を重要視する声が多く聞かれます。そこで、インターネット特許情報検索サービス「HYPAT-i」では、好評をいただいております中国特許・意匠検索に加えて、アジア特許検索を5月15日よりサービス開始いたします。

ご提供する情報は、インド特許庁、フィリピン特許庁、タイ特許庁、ベトナム特許庁、台湾特許庁の5機関が発行する特許情報となります。DOCDBでもアジア諸国の検索は可能ですが、収録率は低く、特に注目のインドでは2007年5月から、情

報が更新されていません(2013年3月現在)。同様に、フィリピンは1999年6月、タイは2012年3月、ベトナムは2012年5月(2011年以降のタイ・ベトナムの収録は数件程)、台湾は2012年5月から情報の更新が行なわれていません。DOCDBを元データとす

るサービスでは、最新の情報を入手することが困難な状況です。発明通信社では、独自のルートを通じてデータの収集を行い、可能な限りのデータを提供する、付加価値の高いサービスを目指しております。アジア特許検索サービスはオプション機能となりますが、HYPAT-iユーザー様には、6月末まで無料にてお試しいただけます。まだIDをお持ちでない方も、お試しいDを発行いたしますので、お気軽に営業担当までお申込みください。

昨年、京都大学IPS研究所長 山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されたことは記憶に新しいことです。山中教授が記者会見で繰り返し言われていたのは、

ターゲットした本制度は、その名の通り出願に必要な費用の全部又は一部を日本弁理士会が負担するというものです。近年、利用件数は増加傾向にあり、平成24年度は復興支

弁理士は知的財産の創造から 活用までをサポートします

日本弁理士会 会長 古谷史旺



技術開発と特許権の重要性でした。発明や創作といった知的財産は今後も日本社会を支える根幹です。

日本弁理士会では、優れたアイデアやデザインを支援すべく、「特許出願等援助制度」を設けています。平成12年にス

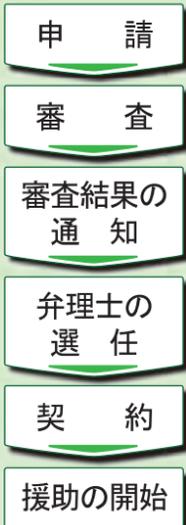
援に特化したものを含め56件の発明・考案・意匠の創作に対して支援をいたしました。本年度も同規模の予算を用意し、多くのサポートをしていきます。

また、東日本大震災からの復興に対しても、復興プロジェクト本部を立

ち上げて活動しており、被災地からの出願を援助する「特許出願等復興支援制度」の実施や、twitterによる情報発信などを行っております。また、福島県浪江町の地域ブランド化に向け

故郷に戻りたくても戻れない町の方々の心のよりどころとなるよう願っています。私も弁理士は、今後も個人・企業の知財パートナーであり続けるべく、更なる自己研鑽を重ね、知的財産の創造から

特許出願等援助制度 利用の流れ



た支援も行っていきます。日本弁理士会が商標出願代理を行い、3月には福島でシンポジウムを開催、「なみえ焼そば」が、

活用までをサポートし、また知的財産制度を支える専門家集団として叡智を結集し、日本の社会を支えます。

海外へ進出して「知的財産」を失う前に 海外知的財産プロデューサー INPIT

「海外市場に事業展開したい!」「自社の可能性を試したい!」、と夢を抱いて海外ビジネスにチャレンジする中堅・中小・ベンチャー企業は数多くあります。

場合は、「海外知的財産プロデューサー」にご相談ください!

しかし、海外展開は、サッカーというアウェイでの戦い。ホームグラウンドと異なる地での戦いは圧倒的に不利。異なる気候(言語)で体力を消耗し、慣れない芝(商慣習)はパスマス(契約の不備)を誘い、ボール(技術・ノウハウ・営業秘密)が敵に奪われるのは日常茶飯事。最悪の場合、審判に笛を吹かれ、レッドカード(多額の賠償金)を負うことまで。アウェイの洗礼を受けて撤退する企業は後を絶ちません。

海外進出したいが何を準備したらいいかわからない企業様から、実際に進出したものの諸々でお困りの企業様まで、「海外知的財産プロデューサー」が、経験に基づいたビジネス視点で、ご相談、アドバイスを行います! ご相談は無料かつ秘密厳守。お気軽にご連絡ください。

海外知的財産プロデューサーへのご相談はこちらへ

(独) 工業所有権情報・研修館
(INPIT) 活用促進部 海外計画担当
電話 03-3580-6949
Email PA8200@inpit.jpo.go.jp

「献血」、知っていますか？

献血の経験者でも、献血がいつスタートしたのか、普及までの道のりは知らない人が多いのではないのでしょうか。「献血すると、家族が輸血してもらえる」「献血のお礼はテレホンカードや図書券」、そんな話を見聞きした人もいることでしょうか。どちらも実際に行われていました。「献血」について、気になりませんか？

普及への道のり
「献血」とは、日本赤十字社が血液事業として実施している、無償の血液提供のことをいいます。献血の歴史を振り返るには、近代の輸血の技術が日本に入ってきた大正時代まで遡ります。当時は提供者から採取した血液を隣に寝ている患者へ直ちに輸血する、「まぐら元輸血」でした。この方法は血液の安全性が確保できず、輸血による梅毒等の感染事故が起り、大問題となりました。



そこで、日本赤十字社では昭和27年、本格的な血液事業の取り組みを開始しました。当時は、預血・返血・無償供血（現在の献血）により血液の確保に努めていました。この預血が冒頭の「献血する」と「」につながります。無償供血は年間わずか1000人足らずと少なく、民間の血液事業者は「預血」という形で血液を集めていました。預血をすると預血証が発行され、それを持って行くと輸血が受けられたそうです。日本赤十字社でも昭和37年に導入しましたが、昭和39年には廃止しました。

無償供血は不安定な国民生活を反映して、思うように進展しません。商業血液銀行を中心に買血による確保も行われており、割合は年々増加。昭和30年代には買血全盛となり、社会問題として注目されるようになりました。供血者は日雇労働者が中心で、血液を売ったお金がその日の糧となる人も多く、頻繁な供血のために亡くなる人さえ出てきました。1ヶ月に1回200mlの採血基準のところ、常習供血者は月に10回、多い人では月50回も。売血者の血液は、赤血球が回復しない内に売血することから、「黄色い血」と呼ばれました。また、血液の品質低下により、昭和35年には輸血後に肝炎にかかる割合が約51%にも上りました。

買血の実体調査とマスコミの活躍により、売血制度の弊害と献血の重要性が浸透し、

日本赤十字社による献血の推進が行われました。昭和38年には買血が97.5%を占めました。42年には献血が70.6%、買血は1.6%と逆転。昭和44年には日本における血液需要の85%まで確保できるようになりました。献血者数に目を向けてみましょう。昭和40年の約37万人からは右肩上がりに増え、昭和60年には約869万人に達します。現在は527万人（平成23年）と減少したものの、必要量は十分に確保されています。これは、全ての成分を含んだ全血製剤から、必要とする成分のみを輸血する成分輸血に主流が移り、必要献血者数が減少したためです。現在は、「赤血球製剤」「血漿製剤」「血小板製剤」が全供給数の内、ほぼ100%を占めています。

献血の器具も進化していま

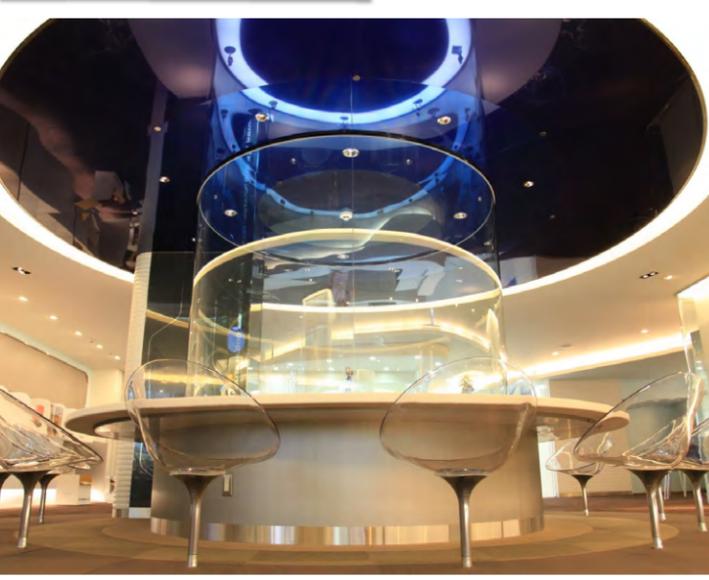


akiba:Fの採血室

いろいろな献血
献血の器具も進化していま

昭和40〜50年頃は、減圧したガラス瓶に針とチューブを繋ぎ、血液を吸い上げる方法でした。採血中の様子は輸血しているような趣です。現在も針とチューブを使っていますが、塩化ビニール製のバックに採取します。血液が空気に触れる可能性の低い状態で、集めることができます。採血の針には、残念ながらあまり変化はありません。「痛くない注射針」や、「世界で最も細い注射針」が開発されましたが、少量のワクチンを注射するのと、400mlを採血するのでは用途が異なります。今後の技術向上に期待しましょう。

日本赤十字社に近い秋葉原には、「近未来的空間」をコンセプトにしたakiba:F献血ルームが存在します。F献血ルーム(右下の写真)は、宇宙船のような室内です。2010年のグッドデザイン賞も受賞しました。これは行ってみるしかない!



都内の新しい献血ルームには、コンセプトが設定されています。「おしゃれなカフェ」「小さなアトリエ」「やさしい森」…。どの会場もコンセプト通りの素敵なインテリアです。

献血者へのお礼として渡されていた、テレホンカードや図書券は、2002年に公布された法律(安全な血液製剤の安定的供給の確保等に関する法律)により、売血と判断されかねないとして、一切行われなくなりました。新たなサービスもありました。最新5回分の血液の検査結果が確認できる「複数回献血クラブ」(<https://www.kekoku.jp/>)。パソコンやスマートフォンから閲覧できます。スタンプラリーのよう献血する楽しさと、健康管理をサポートしてくれますよ。

発明通信社に近い秋葉原には、「近未来的空間」をコンセプトにしたakiba:F献血ルームが存在します。F献血ルーム(右下の写真)は、宇宙船のような室内です。2010年のグッドデザイン賞も受賞しました。これは行ってみるしかない!

ひことこと
昨年末に発明通信社では、初の電子書籍を発売いたしました。「知って得する知財小話」。「ご覧いただけましたか？」
知財業務経験半世紀の著者が、深い洞察と鋭い観察力で、知財と企業のかかわり社会とのつながりを、身近な生活の中から拾いあげた珠玉のエッセー集です。少しだけ本文をご紹介します。



「エンジンとiPod」
エンジンは天才と呼ばれ生涯に1000件を超える特許を取得したといわれています。エンジンが、足繁く通った特許庁と彼の研究所との間には良く踏み固められた道ができていたと伝えられるほどです。
エンジンは、電気を光に変えるフィラメントに高い抵抗値のカーボンを使い、電気を導く線に金属を使った「白熱電球」を使った。1879年10月21日に

発明しました。この発明は1879年11月4日にアメリカ特許庁に出願され、1880年1月27日に特許第223898号として認められました。
今までは高価な白金のフィラメントの代わりとして、実用化のために、安い材料で高い抵抗のカーボンを作る研究を重ね、木綿の糸やリンネンを燃やして炭化したものや繊維質の材料を色々研究したのです。
あらゆる物を燃やしてはカーボンを作った中で、「竹」が一番良さそうだといいことになり、南米から東洋まで世界中から様々な竹を集めさせたそうです。中でも、京都にある八幡の竹が最も優れているというので、10年にわたり大量に輸出され、エンジンの電球に使われたのです。繊維としては天然のものだけでなく、人工的に作り出そうと研究し、イギリス人のスワンと協力して「ニトロセルローズ」を酢酸にかかし穴から押し出す方法まで開発しました。人造繊維の初めといわれるレーヨンよりも・・・
エンジンと京都、意外なつながりですね！続きは、電子書籍をご覧ください。